正中口蓋部に発生した粘表皮腫の1例

大鐘 清 司*・磯 貝 昌 彦*・柴 田 寛 一*・堀 田 一**

Mucoepidermoid tumor of the medianpalate: report of a case

Kiyoshi OGANE*・Masahiko ISOGAI*・Kan-ichi SHIBATA*・Hajime HOTTA**

はじめに

粘表皮腫は唾液腺由来の腫瘍の代表的なものの一つであり、大唾液腺並びに小唾液腺に好発する。小唾液腺に発生する粘表皮腫は他の唾液腺由来の腫瘍と同様に口蓋に発生するものが多く、この際口蓋正中線をさけて、左右どちらかに偏在するものである。

わたくしたちの経験したものにおいては口蓋正中部に発生し、臨床的には唾液腺由来の腫瘍と診断しがたいものであったが、摘出後病理組織検査の結果唾液腺由来の腫瘍と診断された症例で興味あり、稀有な症例であるので報告する。

症 例

患 者： 65歳 女性

初 診：昭和41年11月 日

既往歴および家族歴：特記事項はない。

現病歴：1年程前から口蓋の腫瘤に気が付き漸次増大するので受診した。

主 訴：口蓋正中中部無痛性腫瘤

現 症：体格栄養中等度

全身所見：血液所見，尿所見，その他特記事項は認められない。所属リンパ節の腫脹は認められない。

局所所見：硬口蓋中央部に約2×2cmの弾性軟の半球状，無痛性腫瘤を認める。境界は明瞭な膨隆で，可動性は認められない。腫瘤表面の色沢は正常部よりやや暗赤紫色を呈し，粘膜下に毛細血管の走行するのが見られた（写真1）。咬合法によるX線所見においては腫瘤の圧迫による骨吸収というX線透過性は認められなかった。

臨床診断：良性腫瘍または嚢胞。

処置並びに経過：局所麻酔にて腫瘤を摘出した。腫瘍

写真 1

は一塊として摘出可能で，下在の骨組織には腫瘤の圧迫による吸収は認められなかった。術後10日目に退院した。その後，局所的には異常なく経過したが，昭和44年10月脾臓癌の診断のもとに某病院に入院した。その間口腔内には何ら異常は認めなかったが同年11月に脾臓癌の悪化により死亡した。

摘出物所見：径約1.5cmの球状の弾性に富んだ被膜で覆われており，断面は灰白色粘稠性のある組織で充実し，一部に出血巣ないし壊死組織様の部も認められた（写真2，3）。

写真 2

* 岐阜歯科大学口腔外科第二講座（主任：柴田寛一教授）

** 国立名古屋病院歯科口腔外科（主任：堀田 一郎長）

* Second Department of Oral Surgery, Gifu College of Dentistry (Chief: Prof. Kan-ichi Shibata)

** Department of Dentistry and Oral Surgery, Nagoya National Hospital (Chief: Dr. Hajime Hotta)

受付：昭和51年3月23日

写真 3

組織所見：実質は上皮様細胞ならびに粘液産生細胞およびその中間細胞が存在し，上皮の化生および上皮真珠の形成部もみられる．嚢胞化の傾向も強い．間質は好塩基性の物質で粘液の滲出部と思われる部分も多く存在する（写真4）．

写真 4 腫瘍実質細胞巢中に上皮真珠形成
および粘液細胞がみられる

考 按

粘表皮腫を良性型と悪性型¹⁾，低悪性型と高悪性型に分類するものもあり²⁾，また粘表皮腫と粘表皮癌とを区別しているものもある³⁾．

組織学的には実質が粘液産生細胞と扁平上皮様細胞の両者からなるのが特徴であるが，導管上皮に似た小形の立方形でいわゆる中間細胞もみられる．また明細胞が多量に認められることもある．悪性度の低いものでは実質は主として粘液細胞と扁平上皮様細胞とからなり中間細胞は少ない．粘液細胞でかこまれた小嚢胞状の腔を形成する事が多く，ときには粘液物質が多量に作られ，これが壁を破って間質に流出することがある．また悪性度の高いものでは粘液細胞が少なく，扁平上皮と中間細胞が主体を占めるとされている⁴⁾．そして Lucas は間質中に粘液の多量に滲出している症例は再発しやすいと述べている⁵⁾．本症例においては悪性度の低い型の所見を具備し，かつ上皮真珠を伴っていた．

Chaudhry ら⁶⁾，Bhaskar ら⁷⁾⁸⁾，Smith ら⁹⁾ は粘表皮腫の文献考察を行っているが，わたくしたちも所謂，良性型または低悪性型の範疇に入るものを主にして1924年～1975年までの文献^{10)～38)}を集め，その発生部位別発現頻度を検索してみた結果を表 1，表 2 に示す．発現頻度の部位別記載の明確でないものは除外し，また歯槽突起部と記載されてあるものは歯肉の部に挿入し，顎骨中心性とあるもののみを顎骨の部の分類に入れた．その結果口蓋部の発現頻度は耳下腺に次いで高いが，正中部に発現したとの記載のあるのには遭遇しなかった．元来口蓋正中部には腺組織は存在しないとされており，このような部位に唾液腺由来の腺腫の発生は興味あるものと思われた．

年齢的には関係なく発生するが，本調査結果では20歳代から40歳代に多く発生していた．また性別においては低悪性度のものは女性に多く，高悪性度のものは男女同

表 1 粘 表 皮 腫 報 告 例

報 告 者	報告年	部 位	良性型	悪性型	年 齢
Masson, Berger ¹⁰⁾	1924	耳 下 腺	2		51
		耳 下 腺			65
De and Tribedi ¹¹⁾	1934	耳 下 腺	1		29
Stewart, Foote and Becher ¹⁾	1945	耳 下 腺	20	7	8～60（良性型）
		顎 下 腺	1	2	
		頬 下 腺	1		
		硬 口 蓋	1		
		扁 桃	1	1	
		舌	1	2	
		齒 槽		2	
		鼻 咽 喉		1	

報 告 者	報告年	部 位	良性型	悪性型	年 齢
Rawson, Howard, Royster and Horn ¹²⁾	1950	口 蓋	8		20才代, 40才代に多い
(Foote and Frazell) ²⁾	1953		34	39	
Smith, Broadbent and Zavaleta ¹³⁾	1954	頰	2		31
		下 顎 歯 肉			41
		硬 口 蓋	1		44
			3		31
					69
					65
		硬軟口蓋境界部	1		16
Woolner and Kirklin ³⁾	1954	耳 下 腺	32	29	7~69
		顎 下 腺	4		
Bhaskar and Weinman ⁷⁾	1955	不 詳	6		不 詳
Ranger, Thackray and Lucas ¹⁴⁾	1956	硬軟口蓋境界部	3		不 詳
Chaudhry and Stoesz ¹⁵⁾	1957	口 蓋	1		30
Burbank, Dokerty and Devine ¹⁶⁾	1959	舌	11		26~77
					平均 56.5
玉生 ¹⁷⁾	1959	顎 下 腺	2		20才代 2
		口 蓋	1		60才代 1
Azzopardi and Smith ¹⁸⁾	1960	口 蓋	4		平均 41
		口 腔	2		
Fine and Horn ¹⁹⁾	1960	硬 口 蓋	3		平均 47.1
		軟 口 蓋	3		
		口 底	3		
Chaudhry, Vickers and Gorlin ⁶⁾	1961	口 蓋	5		平均 45
		不 詳	2		
曾田・小幡・生田 ²⁰⁾	1961	口 蓋		1	42
Bhaskar and Bernir ⁸⁾	1962	耳 下 腺	98		20~40に多い
		顎 下 腺	11		
		口 蓋	12		
		頰	7		
		歯 槽 突 起	2		
		後 臼 歯 部	1		
		下 口 唇	1		
		口 底	1		
Gray, Hendrix and French ²¹⁾	1963	耳 下 腺	20		11~71
		顎 下 腺	1		38
		口 蓋	3		73
					58
		頰	2		55
					38
					49
		歯 槽 突 起	1		63
		口 腔 前 庭	1		66
Bhaskar ²²⁾	1963	歯 槽 骨	1		33
		下顎骨後方部	1		1
Rzucidfo und Rzeszofko-Adamiczka ²³⁾	1964	下 顎 骨	1		58

報 告 者	報告年	部 位	良性型	悪性型	年 齢
Rhodes, Wertheimer and Merrill ²⁴⁾	1964	下 口 唇	2		55 42
Brown and Lucchesi ²⁵⁾	1966	下 顎 骨	4		不 詳
長尾・小宮・古川・奥山・鈴木 ²⁶⁾	1967	口 蓋	3		53 他不詳
Smith, Dahlin and Waite ⁹⁾	1968	上 顎 骨	5		41 30 63 48 35 49 24 73 34
		下 顎 骨	3		77
Silverglade, Alvares and Olech ²⁷⁾	1968	口 蓋 骨	1		5~79
Jakobsson, Blanck and Eneroth ²⁸⁾	1968	下 顎 骨	1		39
久野・東・渡辺・須田 ²⁹⁾	1968	耳 下 腺	43		48 平均 32.3
		歯 肉 頰 移行部	2		
中村・新国・小土肥, 他 ³⁰⁾	1968	顎 間 皺 壁 部			
		上 顎 部	5		
		下 顎 部	1		
柿沢・田辺・奥山・小宮 ³¹⁾	1971	耳 下 腺 部	1		
伊藤・小幡・曾田・他 ³²⁾	1972	口 蓋	3		
			11	8	平均 44.6
		口 蓋	(4)		
		下 顎 白 歯 部	(4)		
		頰 部	(3)		
		耳 下 腺 部	(2)		
		口 底 部	(2)		
曾田・岡山・新森 ³³⁾	1972	舌 脊 中 央	1		45
寺島・紙野 ³⁴⁾	1972	右 耳 介 前 下 部	1		57
吉田・滝川・工藤, 他 ³⁵⁾	1974	下 顎 白 歯 部	1		38
三宅・玉井・松井・増田 ³⁶⁾	1974	舌 尖	1		67
関山・茂木・小森, 他 ³⁷⁾	1974	口 蓋		1	50
Stephen and Bernard ³⁸⁾	1975	耳 下 腺 下 部	1		60
本症例	1976	口 蓋 正 中 部	1		65
() は文献 39) より引用			() は良性型 悪性型不詳		

表 2 粘表皮腫部位別発現頻度								
耳 下 腺	顎 下 腺	口 蓋	頰	舌	歯 肉	口 底	口 唇	顎 骨
219	19	72	15	14	9	6	3	23

率に見られる³⁹⁾。

1963年の Bhaskar²²⁾ 報告以来顎中心性に発生した症例報告が多くなっている。

予後並びに治療法：追跡調査に関して Bhaskar ら⁸⁾

は14年間で118例中同腫瘍による死亡8例をあげ、Jakobsson ら²⁸⁾ は5~25年間の調査の結果生存94~100%と報告している。治療法は良性型においても完全摘出が指摘されているが、Smith ら⁹⁾ は顎骨には良性の粘表

皮腫は存在しないと述べその処置に対して注意を喚起している。

わたくしたちの症例は腫瘍摘出後3年で腭臓癌で死亡しているが、死亡時の口腔所見では異常を思わせる所見は認められなかった。

む す び

口蓋正中部に発生した粘表皮腫の1例を報告した。同部の発生の明瞭な記載の報告例は渉猟しえた範囲の文献においては見出しえなかった。

御指導を頂いた本学口腔病理学教室寺崎太郎教授に感謝します。

引 用 文 献

- 1) Stewart, F. W., Foote, F. W., Becker, W. F. : Mucoepidermoid tumors of salivary glands. *Ann Surg* 122 : 820 1945.
- 2) Foote, F. W., Frazell, E. L. : Tumors of the major salivary glands. *Cancer* 6 : 1099 1953.
- 3) Woolner, L. B., Pettel, J. R., Kirklin, J. W. : Mucoepidermoid tumors of major salivary glands. *Am J Clin Path* 24 : 1350 1954.
- 4) 石川梧朗, 秋吉正豊 : 口腔病理学Ⅱ. 永末書店, 京都, 1973, 1077頁.
- 5) Lucas, R. B. : Pathology of Tumours of the Oral tissues. ed 2., Churchill Livingstone, Edinburgh and London, 1972, p 290.
- 6) Chaudhry, A. P., Vickers, R. A., Gorlin, R. J. : Inter minor salivary gland tumors. An analysis of 1,414 cases. *Oral Surg* 14 : 1194 1961.
- 7) Bhaskar, S. W., Weiman, J. P. : Tumor of minor salivary glands. *Oral Surg* 8 : 1278 1955.
- 8) Bhaskar, S. N., Bernir, J. L. : Clinical features, histology, Variations, natural history, and result of treatment for 144 cases. *Cancer* 15 : 801 1962.
- 9) Smith, R. L., Dahlin, D. C., Waite, D. E. : Mucoepidermoid carcinomas of the jaw bones. *J Oral Surg* 26 : 387 1968.
- 10) Masson, P., Berger, L. : Epitheliomas a double metaplasie de la parotide. *Bull Ass franz Cancer* 13 : 366 1924.
- 11) De, M. N., Tribedi, B. P. : A mixed epidermoid and mucus secreting carcinoma of the parotid gland. *J Path Bact* 49 : 432 1939.
- 12) Rawson, A. J., Howard, J. M., Royster, H. P., Horn, R. C. : Tumors of the salivary glands. A clinicopathological study of 160 cases. *Cancer* 3 : 445 1950.
- 13) Smith, A. G., Broadbent, T. R., Zavaleta, A. A. : Tumors of oral mucous glands. *Cancer* 7 : 224 1954.
- 14) Ranger, A. C., Thackray, A. C., Lucas, R. D. : Mucus gland tumors. *Brit J Cancer* 10 : 16 1956.
- 15) Chau dhry, A. P., Stoesz, A. R. : Mucoepidermoid tumor of palate ; report of case. *J Oral Surg* 15 : 70 1957.
- 16) Burbank, P. M., Dokerty, M. B., Devine, K. D. : A clinicopathologic study of cases of 43 glandular tumor of tongue. *Surg Gynec Obst* 109 : 573 1959.
- 17) 玉生みい : 唾液腺腫瘍の臨床的研究 (特に小唾液腺腫瘍について). *口外誌* 5 : 2 1959.
- 18) Azzopardi, J. G., Smith, O. D. : Salivary gland tumors and their mucins. *J Path Bact* 77 : 131 1959.
- 19) Fine, G., Marshall, R. B., Horn, R. C. : Tumors of the minor salivary glands. *Cancer* 13 : 653 1960.
- 20) 曾田忠雄, 他 : 口蓋に発現した粘表皮癌の1例. *口外誌* 7 : 2 1961.
- 21) Gray, J. M., Hendrix, R. C., French, A. J. : Mucoepidermoid tumors of salivary gland. *Cancer* 16 : 183 1963.
- 22) Bhaskar, S. N. : Central mucoepidermoid tumor. Report of 2 cases. *Cancer* 16 : 721 1963.
- 23) Rzuclidfo, Zb., Rzeszotko-Adamiczka, D. : Über einen Mukoepidermoid tumor eines Unterkiefers. *Z Allg Path* 105 : 409 1963.
- 24) Rhodes, R. A., Wertheimer, F., Merrill, R. G. : Mucoepidermoid tumor of the lower lip. *Oral Surg* 17 : 335 1966.
- 25) Brown, A. M., Lucchesi, F. J. : Central mucoepidermoid of the mandible ; report of case. *J Oral Surg* 24 : 356 1966.
- 26) 長尾喜景, 他 : 口蓋に発生した小唾液腺腫瘍について. *歯科学報* 67 : 407.
- 27) Silverglade, L. B., Alvares, O. F., Olech, E. : Central mucoepidermoid tumors of the jaws, Review of the literature and case report. *Cancer* 22 : 650 1968.
- 28) Jakobsson, P. A., Blanck, C., Eneroth, C. M. : Mucoepidermoid carcinoma of the parotid gland. *Cancer* 22 : 111 1968.
- 29) 久野吉雄, 他 : Mucoepidermoid Tumor と思われる2症例. *日口外誌* 14 : 197 1968.
- 30) 中村平蔵, 他 : 唾液腺腫瘍の52例. *口科誌* 17 : 320 : 1968.
- 31) 柿沢 卓, 他 : 口蓋に発生した小唾液腺腫瘍の等高線図法による臨床的観察. *日口外誌* 17 : 3 1971.
- 32) 伊藤秀夫, 他 : 粘表皮腫に関する臨床的考察. *日口外誌* 18 : 6 1972.
- 33) 増田敏雄, 他 : Mucoepidermoid tumor の1例. *日口外誌* 18 : 2 1972.
- 34) 寺島 寛, 他 : 粘表皮癌. *外科治療* 26 : 6 1972.
- 35) 吉田好輝, 他 : 下顎臼後部に生じた粘表皮腫の1例. *日口外誌* 20 : 5 1974.
- 36) 三宅良子, 他 : 舌にみられた Mucoepidermoid tumor の1例. *日口外誌* 20 : 1 1974.
- 37) 関山三郎, 他 : 多様な組織所見を呈した Muco-

- pidermoid carcinoma の1例. 日口外誌 20:6
1974.
- 38) Stephen, E. R., Bernard, K. : Mucoepidermoid
carcinoma arising within a Warthins tumor.
J Oral Surg 40:391 1975.
- 39) 太田邦夫: 唾液腺腫瘍について（形態学的问题
を中心に), 臨床病理 3:203 1955.
-